



医療法人幸生会

琵琶湖中央リハビリテーション病院

Biwako Central Rehabilitation Hospital

- 日本医療機能評価機構・リハビリテーション(回復期)高度・専門機能認定病院
- 日本リハビリテーション医学会認定研修施設

地域とともにつなぎあい
患者とともに歩む医療

病院だより

第152号
2023/9/15

園芸プロジェクト

☆夏野菜の収穫を行いました! ☆

屋上庭園では、7月は収穫のピークを迎えました。収穫した植物は、きゅうり、ゴーヤ、トマト、エダマメ、ピーマン、スイカ、じゃがいも、ラベンダーとたくさんの種類を収穫しました。その中でも今回ご報告させて頂くのはじゃがいもの収穫です。4月に12個の種芋を患者さんと一緒に植えました。途中、せっかくできたじゃがいもが緑色にならないように土寄せを行い、毎日水をやる等、患者さんと一緒に大切に育てました。

7月初旬に収穫の目安である“葉や茎が枯れ始め”たため、4名の患者さんとリハビリスタッフが付き添って、じゃがいも掘りを行いました。今回、収穫できたじゃがいもは、なんと約11kgの大収穫となりました!!

じゃがいも掘りはしゃがむ動作や、土から引き抜く動作、立ったまま土を払う動作など全身を使った運動です。これは腕や足を鍛えるだけでなく、立ったまま上手く作業をすることや、転倒しないように注意をしながら作業をするという普段のリハビリの応用動作の練習にもなります。

リハビリでは、模擬的に「おもり」を使うなどしてありますが、園芸作業で実際に行うことで、身体を鍛えることはもちろんのこと普段のリハビリの成果を発揮する機会になります。これにより普段ではできないと思っていた動作でも挑戦をしてみようという意欲を引き出し、自信を持っていただけることもあります。この様に園芸作業は、普段のリハビリのモチベーションアップにも繋がっていると考えています。

リハビリ療法部 作業療法士 岡部 尚史

夏空の下、
皆で一斉に!
さあ! 収穫です!!



大収穫!!
11kgの
ジャガイモたち



患者さんもスタッフも
土の中の宝探しに夢中!

その先の景色へ...

奥田選手 躍進中!!

◎カヌーワイルドウォーター戦記◎

【戦績】

- 2018 カヌーワイルドウォータージャパンカップ最終戦 優勝 日本ランキング1位
- 2019 カヌーワイルドウォータージャパンカップ(第2戦、第3戦、最終戦)優勝 日本ランキング1位
- 2021 カヌーワイルドウォータージャパンカップ第1戦 優勝
- 2022 カヌーワイルドウォータージャパンカップ(第1戦、第2戦、最終戦)優勝 日本ランキング1位
- 2023 カヌーワイルドウォータージャパンカップ(第1戦、第2戦、第3戦)優勝
- 2018~2023 ナショナルチームA代表



こんにちは。総務課の奥田です。

6月24日~6月25日に青森県で行われましたカヌーワイルドウォータージャパンカップ第3戦に出場してきました。

今回は短距離種目のスプリントレースでした。公式練習では初めての川で苦手なスプリント種目ということでいろいろと苦戦し、一度も上手く漕ぐことができずに終了してしまいました。理想のラインで漕げているイメージが持てないまま、レース当日を向かえてしまったので正直、どこまで通用するのか不安でしたが、実際にスタートしてみると1本目の予選ではミスすることなくゴールできたので全体の2位で決勝へ進めました。予選で1位、3位の選手は毎年優勝争いをしている強敵だったので、トップ争いに入ることができただけでも十分でした。決勝では少し緊張感が軽くなったので、とりあえず結果を気にせず、思い切りやってみよう、という気持ちで、スタートから全力で漕ぎました。すると自分でも驚くほど予選よりも上手く漕ぐことができました。

結果は...なんと優勝でした!



7月2日には地元、滋賀県の瀬田川で鹿児島国体の出場枠をかけた近畿ブロック予選が開催されました。残念ながら大雨の影響で放流量が増加したため、安全に配慮し、上流の静水コースへと会場が変更になりましたが、無事に鹿児島国体への出場権を得ることができました。

今年のジャパンカップはあと第4戦と最終戦です。どちらもスプリントレースで、さらに厳しい戦いになりますが、鹿児島国体も含め、皆様に少しでも良い結果を報告できるように頑張りますので、今後ともよろしく願いいたします。

いつもご声援ありがとうございます。

事務 奥田 翔悟

《ワイルドウォーターの種目》

- ・スプリント...短距離 300m~600m
- ・クラシック...長距離 30分以内
- (国内レースでは約1500mがほとんど)

徹底解剖!!

生活シミュレーションエリア④ ～洗面台～

今回は、昨年新しく完成した生活シミュレーションエリアの中にある「洗面台」をご紹介します。

今回導入した洗面台は高さを変えることができ、患者さんの生活される環境に合わせた高さで訓練を実施することができます。また、取り付けてある鏡を通してご自身と向き合うことができます。入院中には鏡を見る機会も少なくなってしまうがちですが、リハビリの中で鏡を見て「髪の毛が伸びましたね」という会話が生まれることや、ご自身の髪形を整えられる患者さんの姿を見ることも少なくありません。

洗面台は手洗い、歯磨きや洗顔、整髪、化粧や髭剃りなど日常生活のなかで使用することも多いと思います。何気なく行っている動作ですが、手洗いや歯磨きをすることで身体を綺麗にし、清潔を保つことができたり、鏡を見て髪を整えることや、化粧をすること、髭を剃ることでモチベーションを上げることができているのではないのでしょうか。そして、それが自身の健康を保つことやよりよい生活を送ることに繋がっていると考えています。

これからも患者さんの生活のなかで、洗面台を利用し清潔さを保つことや身だしなみを大切にさせていただくことができるよう、おひとりおひとりが使用する洗面台に近い環境で訓練を実施し、QOL向上に向けたお手伝いをしていきたいと思っております。

作業療法士 上田愛純



《第60回日本リハビリテーション医学会学術集会 演題発表》(6/29～7/2・福岡)

- 『COVID-19感染症による重症肺炎治療後に腸管壊死をきたした1例のリハビリテーション医療の経験』(ポスター演題発表) 医師 浅井 哲
- 『当院の「腰痛サポートダイヤル」の取り組みについて』 医師 松岡 真弓

《第38回滋賀県理学療法学会学術集会 演題発表》(7/2・滋賀)

- 『圧力波治療(拡散型ショックウェーブ治療:RSWT)の痙縮改善効果により社会参加が実現した症例の報告』 理学療法士 松浦 陵平



出前講座

お茶の間教室「はつらつサロン」

◎富士見台五区自治会の皆さんと◎



皆さんは、認知症予防体操というものをご存知ですか？

「あれ？何を取りに来たんだっけ…？」「このテレビの俳優さん…名前は…ええと…」目的や人や物の名前が出てこない等の、もの忘れ。厳密に言えば、普通のもの忘れと認知症のもの忘れの違いはありますが、いずれにせよ頭に忘れ物を抱えているようで気持ち悪いものです。

そこで当チームでは、楽しんで体操しながら計算やしりとりなどで頭も使う、体も頭も少し忙しくて思わず笑ってしまう認知症予防体操を行っています。

課題を完璧にできること・やり切ることができれば最高ですが、何より大切なのは「笑う」こと。童心にもどって、目をキラキラさせて、次にどんな課題が来るのかワクワクしながら挑戦していく、ご参加の皆さんの姿を眺めるのは本当に楽しいものです。

そして今回、富士見台五区自治会の皆さんともワイワイ賑やかに、時間を忘れて夢中になる

一時をご一緒することができました。

開催後のアンケートでも「楽しくて、久しぶりに沢山笑いました。いつも、この会が楽しみです」とのお声を頂き、嬉しい気持ちでいっぱいになります。

ありがとうございました。

作業療法士 上田 健
社会福祉士 上嶋 美由紀



【病院理念】

慈(めぐみ)の源“マザーレイク”のように、私たちは地域の皆さまの心と体のよりどころとなるよう努めます。

【基本方針】

1. すべての職種が協働し、生活を支えるリハビリテーションの実践に最善をつくします。
2. 患者の意思を尊重し、科学的根拠と倫理観に基づき、安全と安心の医療を提供します。
3. 医療・介護・福祉連携を推進し、地域包括ケアシステムの推進に貢献します。
4. すべての職種のたゆまぬ研鑽により、質の高いチーム医療をめざします。
5. 人材の育成に努めるとともに、職員が働きがいと充実感の持てる職場づくりをめざします。

♪あしあと♪

今年も、Kさんは手塩にかけて育てた夏野菜の収穫を楽しみにしておられました。さて、そろそろトマトの食べ頃かな、という時に裏山からきた猿の集団に全部食べられてしまいました。昔は猿が来たら追い払いに行ったそうですが、最近は知らない内に上手に盗って行くようで猿との知恵比べです。(健康福祉事業課)